

1 研究題目

当院における排尿自立指導の取り組みと今後の課題

2 研究の対象

血管外科、脳神経外科、循環器内科の混合病棟に入院した患者3,116名を対象に調査

3 研究目的

入院した対象患者に排尿自立指導の導入前の1年間と導入後の1年間のデータを比較調査。ある一時点の尿道カテーテル留置患者率、尿道カテーテル留置の延べ日数、カテーテル関連尿路感染の発生率をもとに尿道カテーテル留置の延べ日数を検証し、その要因となる関連性について調べる。

当院における排尿自立指導は徐々に拡大し、排尿自立指導の効果を評価するため上記3つの評価指標の結果を明らかにするとともに、今後の課題を検討した。

4 研究期間

日本排尿機能学会 2023年9月7日・8日・9日(発表日時は未定)

5 研究に用いる試料・情報の種類

患者基本情報(年齢、性別、体重、身長)、薬剤性肺障害診断項目、臨床所見、胸部X線検査結果、胸部CT検査結果、血液検査(血算:白血球数、白血球分画(機械法でも可)、血液生化学:LDH、CRP、KL-6、SP-D、SP-A)、FeNO測定値等

6 研究責任者

医師 大枝 忠史